



特集記事
-Special Program-

障がい者スキー交流会2019

開催期日：平成31年3月9日（土）～10日（日）／開催会場：安比高原スキー場

参加総数 100名以上～久しぶりの晴天 開催の下に大いに盛り上がりました！

今シーズンから開催時期を2月から3月に変更。例年の2月開催は繁忙期に加え、アジア系の旅行者が増えており、宿泊料金等の経費負担を考慮して開催時期を3月にした。当日は久しぶりの好天にも恵まれ小学生から高齢者まで障がい当事者が32名、ご家族、講師、ボランティアスタッフなど70名の合計102名の参加者がスキーを楽しんだ。

さて、今回も多くの障がい者スキーヤーが参加。

様々な障がい種別や年齢、性別に加えて、体格、日常的な運動実施状況、スキー経験の有無等を考慮しながらの指導プログラムを実施するためには、専門的な指導者が必要となる。そこで、本県は長年に渡り、日本プロスキー教師協会（以下、SIA）の皆さんに講師を務めていただいている。SIAはプロのスポーツ団体として、障がい者スキーのインストラクター養成（障がい者スキー認定教師）に取り組む希少な団体である。といっても各地域での普及に必要なインストラクター養成は、まだ十分ではなく、岩手には安比高原スキー場に1名しかいない現状である。

CONTENS



■特集記事

P1/障がい者スキー交流会 2019
P3/ホルスト・ストローケンデル氏 追悼イベント

■活動報告 (P4～P7)

福祉ボランティア講座/パラ駅伝 inTOKYO2019 説明会&練習会/第5回東北地区スポーツ栄養研修会/中級障がい者スポーツ指導員養成講習会 他

■掲示板 (P7)

第2回あまちゃんカップ、みんなのスポーツフェスタ、キャンプ体験交流会、グラウンドゴルフ花巻交流大会、宮古・田老ゲートボールユニバーサル交流大会 他

■会員紹介 (P8)

ホームページについて

開催要項、申込書データのダウンロードや詳細情報は当協会のホームページよりご覧ください。

URL → <http://www.iwate-adaptive.or.jp/>



お問合せ先：一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会
TEL 019-637-5055 / FAX 019-637-7626
E-mail : info@iwate-adaptive.or.jp



▲①平昌パラに出場した高村和人さん（一番左側）とご家族。今度はアルペンに挑戦？②青森から参加した齋藤茉莉さん親子（中央二人）。③④チェアスキーのフィッティングの様子。事前の障がいの状況と併せ、スキーヤーとコミュニケーションを取りながら、ポジションを確認していく。

よって遠くは九州、北海道など県外の障がい者スキー認定教師に12名参加していただいている。また、今回も強く感じたのだが医療リハビリ専門職のマンパワーである。特に理学療法士、作業療法士からのサポートは重要であり、車いすからチェアスキーへの移乗、チェアスキーのフィッティング時など効果的かつリスクマネジメント管理に力を発揮していただける。

雪の多い地域の皆さんは障がい者スキーを楽しんでいただきたい。アウトドアでのスポーツの実施は爽快感とともに障がいという制限を取り除き、活動の幅を広げるといった目的もある。ただし、チェアスキーなどの専用機材や指導者の不足等、課題もあると思われるが、こちらで有するノウハウの提供や用具の貸出しも可能であるので是非ご相談ください！

日本プロスキー教師協会(SIA)公認の障がい者スキー認定教師について

SIAは、「健常障害を問わずスノースポーツを楽しむ環境作り」を理念としている。その1つの取組みとして、SIAの障がい者スキー認定教師という資格がある。しかし、障がいのある方への有料でのスキーレッスンの機会は少なく、インストラクターの経験値は課題となっていた。また、障がい者へのスキー指導は、それぞれの障がいに応じたレッスン方法の他にリスクマネジメント管理が重要となるため、ボランティアレベルでの指導は時に危険を伴う場合もある。

これまで、当協会の企画するスキー教室もリスク管理には不安があった。そこで、インストラクターの経験値を希望するSIAと安全で効果的な指導方法を確立したい当協会とのニーズが合致し、連携事業としての開催となった。

この事業の実現に大きく関わったのが、当時、SIA障がい者スキー委員会委員長の小滝頼介氏（故人）である。2006年からSIAとの連携開催が実現。現在は「Kotaki Memorial」という冠称で実施している。

岩手チェアスキークラブの活動～県内における普及活動を担う

SIAとともにこのスキー交流会に欠かせないメンバーが「岩手チェアスキークラブ」である。

クラブのメンバーは障がい者スキーヤーとその家族に加えて医療リハビリ専門スタッフ等も様々な顔ぶれで事業運営を担当。シーズンを通して、サポーター養成を目的とした講習会を2回、普及を目的とした教室を2回ほど開催している。

ここ数年は、小学生の参加も多く、保護者に当協会の事業案内をいただき、その結果、当協会の事業にも小学生の参加が増えている。



立位か？座位か？の選択

上の画像は普段は立位歩行している小学生への指導の様子。午前中はご家族の希望によりバイスキーを楽しんだ。午後は立位スキーへ挑戦。スキーブーツは装具の役割を果たすため、立位の保持が容易となることがある。筋力等の関係もあるが、将来的には十分に立位スキーを楽しめると考えられる。



▲①現在、SIAでのコーディネート的な役割を担う山川洋氏（横浜ラポール）②立位スキー指導のスペシャリストであるツルリン丸こと田村英機氏。最近のルックスは仙人レベル？③空飛ぶ車いすでお馴染みの鈴木勝良さん（中央）。高いところだけでなく、スピードも大好き。④開会式は安比プラザ1階のフードコートで実施している。⑤この事業のもう一つの楽しみである前夜祭（情報交換会）には約50名が参加。こちらをメインにしている参加者も多いようである。

開催期日：平成31年3月21日（木祝日）／開催会場：ふれあいランド岩手・ホール

開催に至る経緯について



▲①平成30年3月3日に開催された特別研修会の基調講演。左側がホルスト・ストローケンデル氏。右側は通訳・解説を担当した橋本大佑氏②同研修会基調講演に引き続き行われたパネルディスカッションの様子

平成30年3月にホルスト・ストローケンデル先生をお招きして基調講演とパネルディスカッションを実施。地域における障がいのある方々のスポーツ参加環境づくりについて活発な意見交換を行った。その数か月後に同氏の訃報が届いた。再び、岩手にお招きして深いディスカッションにつなげようと企画を始めていたところであった。本事業は、同氏の追悼と功績の再評価と継承を目的として実施した。

基調講演～当事者と指導者の『これなら できる！』が地域を動かす！

講師：金田 安正 氏（びわこ成蹊大学名誉教授／児童デイサービス アクティブライフスポーツ教室代表）

金田先生は国立障害者リハビリテーションセンターの運動療法士として主に身体障がい者のリハビリテーションを担当。「身体が動けば心が動く」の理念の下に運動療法を実施。同じく「心が動けば身体が動く」ことに着目し、積極的に精神及び知的障がい当事者や関係団体にもスポーツ導入を展開。このような三障害を対象とした活動は、2001年の第1回全国障害者スポーツ大会のフライングディスク競技採用にも深く関わる。アキュラシー種目の「障害区分なし」やディスタンス種目の「立位・座位、男女別」の実施は、他の正式競技とは一線を画す。（中略）



▲①基調講演を行う金田氏。当時から共生社会型スポーツに取り組む。②発表者の中嶋氏。自身は青森県チェアスキー協会、青森県障がい者フライングディスク協会の事務局を務める。③左が橋本氏。本シンポジウムの企画段階から様々な助言をいただいた。④左が堀川氏。2012年に県内に初めて卓球バレーを導入した時から数えて何と55回目の来県となった。

当初から障がいの有無に関わらずという理念の下に官民問わず広く働きかけた。当時の縦割り社会では画期的な取組みだが、浸透させるための苦労も多かったと伺った。しかし、これが今では国の取組むべき方向性となっており、金田先生は、まさに、障がい者スポーツの普及・振興を通じた共生社会づくり推進の先駆者と言っても過言ではないだろう。

パネルディスカッション～地域を変える障 がい者スポーツの取組み

堀川 裕二 氏／日本卓球バレー連盟副会長兼普及委員長・社会福祉法人太陽の家

これまでに卓球バレーは西日本が普及の中心であったが、2016年の希望郷いわて大会オープン競技実施を契機に岩手県内のみならず東北、関東、北陸地区にも普及活動を展開。それと同時に海外、特に発展途上国へ普及活動を広げた。なぜ卓球バレーが国内外で受け入れられるかを多くの活動事例の紹介と併せて解説した。現在は、卓球バレー等のユニバーサルスポーツの普及の取組みが、様々な障がい種別、年齢、そして障がいの有無を越えた取組みとなっている。これが地域コミュニティの形成にも役立つことが注目されている。

中嶋 実樹氏／弘前大学教育学部附属特別支援学校教諭

地域の様々な障がい者スポーツ活動に関わり、多くの課題・現状と向き合いながら、スポーツの素晴らしさを生徒にも伝えたいと考えていた。その1つの手立てとして学校としてスポーツ庁の委託事業の受託を申請。受託にあたり校内からは反対の声も多かった。まずは、保護者へのアンケートを実施したところ、保護者は、地域にあるサークルやクラブ等への参加には抵抗感を感じており、活動主体が学校にあることを希望していた。この結果をふまえながら、徐々に地域とのネットワークを築き上げ、参加者相互で歩み寄り、事業を展開。その後の「またやりたい」という声を引き出した。この声が「反対」する声を「賛成」へと変える力になっていった。



パネルディスカッション(会場からの質疑)

- *地域のボッチャ大会での健常者とのレベル差
- *特別支援学校生徒の卒業後の受け皿
- *特別支援学校施設の貸出し
- *教員の働き方改革 等

上記は、まさに今注目される課題であり、会場とパネリストにより解決に向けて活発な議論が行われた。

総括

最後に橋本氏により本シンポジウムを総括していただいた。

橋本 大佑 氏

(一社)コ・イノベーション研究所代表理事

今回は、地域にスポーツを展開するために何が必要かということがテーマになっている。そのためには、障がい者スポーツの価値を高める必要がある。一例として、地域において障がい者がスポーツに参加することにより、個別避難計画の作成に役立てられるといったような社会的な効果を持続・発展していくことがこれからの考え方になる。そのためにはさらに多くの関係者を巻き込んでいくことが必要であり、それを可能にするのが地域における障がい者スポーツの取組みである。

事業報告 -Report-

2月～3月の活動報告です

※紙面スペースに限りがありますので、詳細はホームページをご覧ください。

福祉ボランティア講座～フライングディスク教室 in 陸前高田

◆期日：平成31年2月16日(土) ◆会場：あしなが育成会 陸前高田レインボーハウス

◆レポート：主催者である陸前高田市社協のボランティア活動センターより、当協会に子どもからお年寄りまで安心して楽しむことのできるフライングディスク教室の開催依頼があった。そこで、岩手県障がい者フライングディスク協会に協力を要請して、講師4名を派遣し同教室を開催した。会場となったレインボーハウスはあしなが育英会の支援により建てられ、多目的ホールやテーマ別の研修室、調理室などもある他、宿泊も可能などでも使用用途の広い施設である。

さて、参加者は地域の子供たちからお年寄りまで20名ほど。準備運動に続き、フライングディスクの投げ方を学び、早速、アキュラシーという種目を体験していただいた。そのあとは、ディスクゴルフにフライングディスクを活用した数種類のゲームを楽しみながらスポーツを通しての交流を行った。日頃、運動機会の少ない方々にとっても十分に楽しんでいただけたようである。皆さんの笑顔が印象的であった。また機会がありましたら是非、お声がけください！



▲①立位保持の難しい方でもいすを利用して楽しむことができます。②アキュラシー競技の試合体験。③ディスクを使用した陣取りゲームで得点を競います。意外と盛り上がります。④お年寄りから子どもまで幅広い年代の方々に参加していただきました。

パラ駅伝 inTOKYO2019～説明会&練習会を開催しました

◆期日：平成31年2月23日(土) ◆会場：ふれあいランド岩手

◆レポート：パラ駅伝は、様々な障がい種別による区間と健常者の区間もあり、9名のランナー(伴走者含む)がたすきをつなぎゴールを目指す。2019年度で4回目の開催となるが、岩手県チームは2回大会から参加し、今回で3度目の出場。2月23日には説明会と練習会を実施。注目度が高く多数の報道陣が訪れた。

◆岩手県チームの紹介：チーム名/岩手ハネマルスターズ

岩手の方言で「走り回る」「跳ね回る」を『はねまる』、複数の人を表す「人たち」を「すたず」といいます。これを併せて「はねまるすたず」。さらに岩手の童話作家・宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」に光り輝く星(スター)のように活躍を期待する意味を込めて「ハネマルスターズ」というチーム名にしました。

◆チームの特色：

今回の選手は伴走者を除き、すべて中学生、高校生である。他県の大人チームを相手に中高生たちがどのようなレースを見せるか楽しみである。



▲①選手、スタッフの自己紹介に続き、主催者より大会概要の説明があった。②③④立位ランナーから車いすランナーへのたすきリレーの練習を重点的に行った。

第5回東北地区スポーツ栄養研修会が開催されました！

◆日時：平成31年2月24日（日）◆会場：ふれあいランド岩手・研修室

◆レポート：「いわてスポーツ栄養研究会」の主催事業で東北地区のスポーツ栄養士など約40名が参加。今回の研修会のプログラムには、障がい者スポーツに関する内容も含まれ、当協会も関わることとなった。会員間において、障がい者スポーツへの関心度が高く、東京2020のムーブメントは様々な方面に影響を与えていることを実感した。なお、当協会は「本県の障がい者スポーツ振興の取組み」の概要説明と実技の「卓球バレー」を担当。共生社会型スポーツと言われる卓球バレーを楽しみながら体験していただいた。



▲①講演Ⅰ「障がい者スポーツの栄養管理について」／講師：盛岡大学栄養科学部准教授 秦 希久子 氏～秦先生は2012年のロンドンパラリンピック日本代表チームの栄養管理スタッフとしての帯同経験もある。②情報提供「青森大学新体操部の栄養サポートについて」／講師：AKcompany 栄養士 佐藤 由衣 氏～青森大学新体操部の栄養サポートについて。運動強度のデータの少ない新体操、また審美系の種目であり、体形管理のためのダイエットしている選手もいる。③講演Ⅱ「特別支援学校の栄養管理について」／講師：岩手県立盛岡となん支援学校 栄養教諭 徳田 恵子 氏～生徒の様々な障がいに応じて刻み食等の対応の中、できるだけ味や食感を保ちながら、楽しい給食時間にするための創意工夫されていた。④最後にパラスポーツ体験として卓球バレーを実施。皆さん、大いに盛り上がりました！

中級障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催！

◆前期日程：平成31年1月26日（土）～27日（日）、2月9日（土）～10日（日）

◆後期日程：平成31年3月2日（土）～3日（日）、3月16日（土）～17日（日）

◆会場：ふれあいランド岩手

◆レポート：本講習会は、（公財）日本障がい者スポーツ協会公認の初級障がい者スポーツ指導員資格を有し、初級取得後2年以上経過し、80時間以上の活動実績のある方を対象としている。基準カリキュラムは56時間以上であるため、8日～10日間での開催となり、企画運営側のハードルは高い講習会といえる。

よって、毎年度実施する県は少ないようである。講習会のハードルの高さは運営側だけではなく、受講者にとっても同様である。8日間のカリキュラムの受講日程を調整するのは困難であり、毎年度10名程度の受講者となる。今回も例年同様、県外からの参加を含む12名の受講者となった。

さて、本県の講習会においては、長年継続して講義を担当していただいている講師陣が多いのが特徴で、こちらから受講者の傾向や事前の要望等を必要に応じて講師にお伝えしながら講義内容を調整していただいている。講師の皆様のご協力により、素晴らしい講義を提供することができた。なお、3月2日（土）には受講者との懇親会を開催して日頃の労をいやすとともに各自の活動状況等の情報交換を行った。受講者の皆さん、8日間大変お疲れさまでした！



▲①最重度障害者スポーツの実際～2022年より全国障害者スポーツ大会の正式競技となるボッチャの競技規則にもふれた。②実技・卓球～車いすダブルスの試合体験③救急処置法～テーピングによる応急処置。④実技・フライングディスク～基本的な投げ方の指導方法。⑤障害各論（視覚障害）～アイマスクにより様々な視野障害を体験。⑥実技・ユニバーサルスポーツの活用方法～日本卓球バレー連盟公認の卓球バレー指導者資格としても実施した。⑧障がい者スポーツの工夫・実施～スモールステップ理論を学びながらスポーツ導入の重要性を学んだ。⑧実技・水泳競技～様々な障がいに応じた指導方法を学んだ。画像は車いすの入退水方法。⑨最終日の修了式の様子。⑩最後は、受講者全員で記念撮影。

ボウリング教室を開催(視覚障がい者対象)

◆平成31年3月23日(土)◆会場：ラウンドワンスタジアム盛岡店
 ◆レポート：県内在住の視覚障がい者を対象に実施。会場となるラウンドワンでは初めての開催であった。参加者は内陸部・沿岸部の視覚障がい者とガイドヘルパーやご家族など12名が参加した。「ボウリングは本当に久しぶり」という参加者も思い思いにプレーを楽しんだ。自動的にキッズレーン設定に切り替えられるため、初めての方でもピンの倒れる爽やかな音を楽しむことができた。また、会場は盛岡駅からのアクセスがよく、徒歩での移動も容易であるため、今後は肢体不自由の方を含めた交流事業にも活用できると思う。参加者の皆様、ありがとうございました！



▲ピンの倒れる音もボウリングの魅力の一つ。また、様々なアトラクション演出の時間もあり、参加者のテンションも上がっていた。

パラ駅伝inTOKYO2019に出場しました！

◆期日：平成31年3月24日(日)◆会場：駒沢オリンピック公園陸上競技場及びジョギングコース
 ◆レポート：当日は晴天の下、大観衆を集めて開催されました。岩手チームは3度目の出場。中高生を中心に若いメンバーでチャレンジしました。総合成績は第13位となりましたが、見事にたすきをつなぎ切りました。閉会式のフィナーレでは元SMAPの草彅剛さん、稲垣吾郎さん、香取慎吾さんがスペシャルライブとして「#SINGING」「雨ががりのステップ」の2曲を披露し、会場は大興奮の中、パラ駅伝inTOKYO2019が閉会しました。遠路、応援にかけつけていただいたご家族の皆様、先生方、岩手県作業療法士会をはじめ、サポートをいただいた多くの皆様に感謝を申し上げます。

岩手県チームの紹介(成績)

チーム名：岩手ハネマルスターズ

総合成績：第13位/1時間31分37秒

区間	区分(指定)	氏名	所属
1区	視覚	石川 一成	盛岡視覚支援学校1年
	伴走者	折戸 秀和	盛岡視覚支援学校教諭
2区	聴覚	久保 寿瑛	盛岡聴覚支援学校2年
3区	車いす(女子)	安倍 百香	盛岡となん支援学校2年
4区	健全者(男子)	畠山 祐伍	見前中学校2年
5区	知的	中里 巴	盛岡峰南高等支援学校2年
6区	肢体不自由	高橋 優真	西南中学校3年
7区	健全者(女子)	木幡 清花	見前中学校2年
8区	車椅子(男子)	小山田 将人	釜石高等学校3年

*スタッフ名簿

No.	区分	氏名	所属
1	監督	佐藤 慎二	盛岡となん支援学校
2	スタッフ	今宮 正彦	岩手県立胆沢病院
3	スタッフ	畠山 善郁	盛岡つなぎ温泉病院
4	スタッフ	芳賀 綾子	岩手県立千厩病院
5	看護師	高見 静子	ボランティア
6	事務局	三浦 拓朗	岩手県障がい者スポーツ協会



▲①閉会式にて草彅さん、稲垣さん、香取さんと一緒に
 ②猫ひろしさんと「にゃ〜」③1区・石川選手と伴走者の折戸先生④2区・久保選手⑤3区・安倍選手



▲①4区・畠山選手(画像左)②5区・中里選手、③6区・高橋選手(画像右)から7区・木幡選手(画像左)へのたすきリレー⑧8区・小山田選手〜ガッツポーズでゴール

※上記は主催者提供の画像が含まれますので、SNS等への転載は禁止とさせていただきます。

ゲートボール紫波交流大会を開催しました！

◆期日：平成31年3月11日（月）◆会場：サンビレッジ紫波

◆レポート：開催日は、東日本大震災発災からちょうど8年目。県内から12チームが参加。4回戦制の勝敗、得失点にて順位を決定した。なお、ユニバーサルルールを採用。このルールの特徴は主に2つ。1つは、健常者の参加もOKであること。2つ目は車いすや下肢障がい選手のスパークには特別ルールで行う。

前半戦、山田町身障協と宮古福祉会が好調に勝ち星を重ねる。ともに全勝で最終戦へ。直接対決はなく、得失点差の争いとなった。2チームとも勝利で全勝という結果であったが、山田身障協が最終戦で大量得点を上げ、僅差で上回り、優勝した。奇しくも上位3チームは山田身障協、宮古福祉会、南部もぐり（洋野町）と沿岸勢が久しぶりに上位を独占した。閉会式の後、被災地に対して全員で黙とうを行った。



▲①代表者会議の様子。②紫波町ゲートボール協会の皆さん。③試合全景～4コートで実施、④⑤⑥試合の様子。⑦優勝した山田身障協（山田町）⑧準優勝の宮古福祉会（宮古市）⑨第3位の南部もぐり（洋野町）⑩閉会式にて被災地に向けて黙とうを行った。

掲示板

-BBS-

事業詳細や活動団体の紹介、様々なニュースやおススメのイベント情報等をピックアップ！詳細情報は当協会HPをご覧ください！

第2回あまちゃんカップ （卓球パレー久慈交流大会）

- 期日：8/25（日）
- 会場：久慈市民体育館
- 参加資格：障がいの有無、年齢、性別を問わないオールフリー枠での参加OK！
- その他：JICAの研修プログラムにも位置付けられ、海外チームが2チーム参加！



みんなで卓球パレーをやりましょう！エントリーをお待ちしています！！

みんなのスポーツフェスタ

- 期日：8/25（日）
- 会場：一関市総合体育館
- 日程：9時50分～12時30分
- 主催：（一社）一関市体育協会
- 内容：岩瀨麗楽選手のトークショーとスポーツ体験（車いすバスケットボール、サッカー、ポッチャ、スポーツ吹矢、卓球パレー）



キャンプ体験教室を開催！

- 期日：9/1（日）～9/2（月）
- 会場：サンタハウス GETO
- 集合：15時（会場駐車場）
- 内容：みんなで協力してBBQ準備。野外でのBBQを楽しみながらの交流！



第2回卓球パレー体験交流会 ～気仙沼市&一関市障がい者スポーツ協会交流事業～

- 期日：9/7（土）
- 時間：10時～15時半
- 会場：本吉保健福祉センター「いこい」
- 対象：卓球パレー愛好家や卓球パレーに関心のある方など、どなたでも参加OK！



グラウンドゴルフ花巻交流大会開催のお知らせ

- 期日：9/10（火）
- 時間：9時半～（開会式9:50～）
- 会場：日居城野運動公園（花巻市）
- 対象：身体、知的、精神のいずれかの障がいのある方及び一般（一般はOP参加）
- 参加費：1,000円（弁当込）



宮古・田老ゲートボールユニバーサル交流大会2019のご案内

- 期日：9/25（水）～9/26（木）
- 受付：25日（水）11時半～
- 会場：グリーンピア三陸みやこ・パシフィックアリーナ
- 対象：障がいの有無を問いません。ゲートボールの愛好家ならどなたでもOK。
- 定員：20チーム程度
- 参加費：500円
- 弁当：700円
- 宿泊希望者：10,000円



会員紹介 -Our Partners-



(令和元年 5 月末現在 敬称略・順不同)
いつもあたたかいご支援をいただきありがとうございます！

賛助会員一覧（団体）

(一社)岩手県建設業協会	(株) やよいデライト	(有) タイガースポーツ	名鉄観光サービス(株) 盛岡支店
(株) IBC 岩手放送	岩手電工(株)	(一社)岩手県医師会	(株) カガヤ
(株) 北日本銀行	(株) アイシーエス	(株) 岩手日報社	(株) 久慈設計
(株) 丹野組	いわて生活協同組合	(株) 志百家	(一社)岩手県理学療法士会
(株) 明和土木	(株) ヤマイチ	岩手トヨペット(株)	(株) ヴィクトリア ネクススカンパニー
白金運輸(株)	小岩金網(株)	(株) 中野製麺	(株) 長谷川建設
菱和建設(株)	(株) 藤沢体育堂	(株) 宮澤商店	岩手リオン補聴器センター
盛岡商工会議所	(株) 寿広	(株) 遠忠	宮城建設(株)
(株) 青紀土木	(株) 川徳	(株) テレビ岩手	みちのくコカ・コーラボトリング(株)
(株) 菊地建設	岩手雪運(株)	(株) 小林精機	(株) ユニバース
(株) アイエムアイ	(株) 日盛ハウジング	岩手県産(株)	岩手スポーツ用品販売(株)

賛助会員一覧（個人）

内山 順一	菅 里美	平藤 淳	藤村 誠	堀川 裕二	白畑 由貴子
-------	------	------	------	-------	--------

バナー広告掲載中！

賛助会員のバナー広告は無料で掲載しております。現在、以下 24 団体のバナー広告を掲載中。その他、掲載依頼がありましたら随時、当協会 HP にアップいたします。詳細につきましてはお問合せ下さい。

正会員一覧（団体）

岩手県知的障害者ソフトボール協会いわてスマイリーズ	(社福)岩手県社会福祉協議会	(社福)岩手県社会福祉事業団
(一社)岩手県作業療法士会	(株) トラスト保険	サークル「ゆうの会」
(NPO)岩手県精神保健福祉連合会	全国脊髄損傷者連合会岩手県支部	岩手県知的障がい者サッカー連盟
ドルフィンズ岩手	(社福)自立更生会	(社福)岩手県視覚障害者福祉協会
岩手県特別支援学校連絡協議会	岩手チェアスキークラブ・イーハトーブ	岩手県 ID バスケットボール連盟
(社福)岩手県身体障害者福祉協会	(社福)手をつなぐ	

正会員一覧（個人）

佐藤 慎二	藤井 公博	伊藤 昇	高橋 修	民部田 誠	畠山 哲男	三浦 拓朗
佐藤 勝士	白藤 友一	笹木 正	今宮 正彦	横澤 高徳	上村 弥	阿部 史憲
佐藤 佑哉	及川 貞之	佐藤 隆秀	野辺地 省吉	佐々木 満	井上 勝巳	篠原 政良
中野 正紀	佐々木 君夫					

◆会員の募集について◆
「Sports For All」の考えに基づき、障がいのある方々が一人でも多く、いつでも気軽にスポーツに参加できるよう取り組んでまいります。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします！

区分	金額
賛助会員	個人 1口 1,000円
	団体 1口 10,000円
正会員	個人 1口 1,000円
	団体 1口 5,000円

*** 問合せ先 ***
〒020-0831 盛岡市三本柳 8-1-3
(一社)岩手県障がい者スポーツ協会
TEL 019-637-5055
FAX 019-637-7626
E-mail : info@iwate-adaptive.or.jp
<http://www.iwate-adaptive.or.jp/>